

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	大日本印刷株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
工場等の名称	株式会社DNPグラフィカ
工場等の所在地	名古屋市守山区瀬古三丁目902番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	総合印刷業（商業印刷）
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月31日 ～ 令和6年10月29日		
公表方法		掲示 閲覧	（場所） 当該工場 技術部指定場所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-758-4645		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

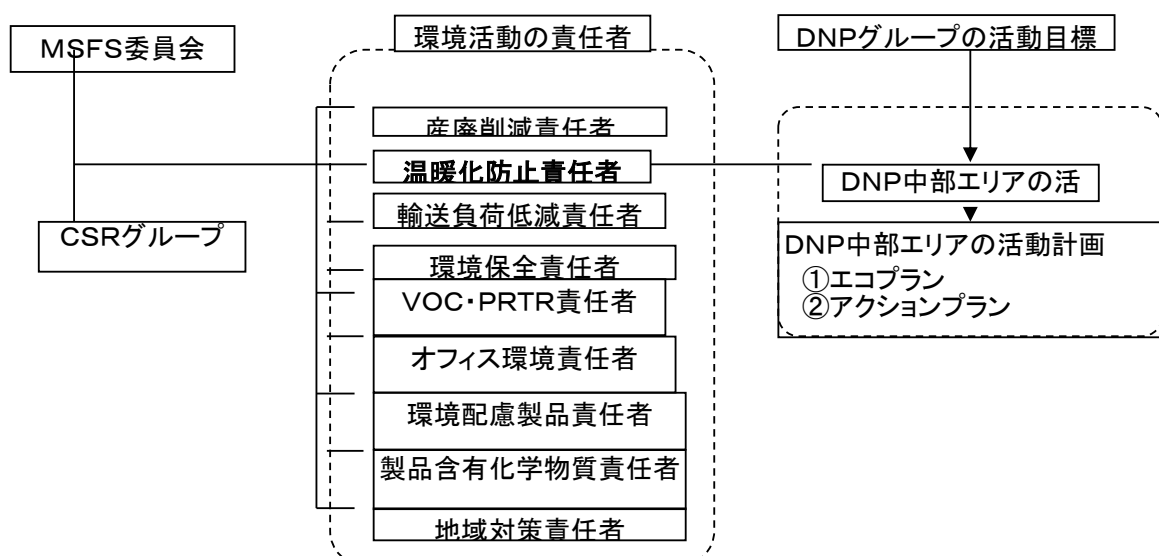
DNP（大日本印刷）グループ全体として温暖化防止目標が設定されており、当グループのCSRに関するホームページ（<https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/>）統合報告書及びDNPグループ環境目標のホームページ（<https://www.dnp.co.jp/csr/11theme/sustainability/target/>）より温暖化防止目標は確認して頂けます。この目標に向けて大日本印刷株式会社中部地区エリアでは、持続可能なマネジメントシステム（MSFS／労働安全衛生・品質・環境・情報セキュリティの活動を統合した自社システム）を設定し「地球温暖化」を推進しております。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

上記の持続可能なマネジメントシステムの中で下記体制にて責任体制を取り決め

活動目標・計画を策定して地球温暖化防止に取り組んでおります。

【MSFS会議体】



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,936	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,936	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
原単位あたりの 排 出 量	95.99	/ 億円	91.19	/ 億円	88.79	/ 億円		/ 億円	
削減率（対 基準年度）			5.0	%	7.5	%		%	
原単位あたりの みなし排出量					88.73	/ 億円		/ 億円	/ 億円
削減率（対 基準年度）					7.6	%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

日々の省エネ活動及びエネルギー使用の少ないデジタルプリント分野の拡大が目標達成に寄与している。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進	照明設備LED化 自動点滅器、プルスイッチ設置	年間120台更新予定	目標に対して、100台更新。
省エネルギー・省資源の推進	コンプレッサー更新	エアーコンプレッサー1台更新予定	実施できず。 2024年8月更新予定。
省エネルギー・省資源の推進	転写部門照明LED化	200台更新予定	実施できず 予定未定
省エネルギー・省資源の推進	製袋部門照明LED化	420台更新予定	200台実施
省エネルギー・省資源の推進	製袋部門空調機更新	空調機8台更新予定	実施できず 4台更新予定

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
グリーン電力証書	東北	3.4 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

3.4	t-CO ₂
-----	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

印刷物等への受注製品にグリーン電力証書の使用および得意先への採用推進を図った。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

環境活動全般に対し社内啓蒙活動を実施。昼休みの消灯、不要電力の削減活動として確実にPC等の電源を落とす活動を推進した。
